

1. 日本語教育部門

一橋大学における日本語教育は大きく5つに分類することができる。第1は、留学生センターが開講する2つのコースである。1996年のセンター発足年に設置された文部科学省国費研究留学生に対する日本語の予備教育を中心とする「日本語研修コース」と、2004年度10月に拡充整備された「日本語・日本文化研修留学生プログラム」である。第2は「全学共通教育科目（2003年度までの名称は「教養教育科目）」としての日本語科目、第3は「学部教育科目」としての日本語科目、第4は「大学院科目」、そして、第5は「春季・秋季集中日本語コース」である。

これらの日本語のコースのうち、補講である第1の「日本語研修コース」と第5の「春季・秋季集中日本語コース」の授業、および、第1の「日本語・日本文化研修留学生プログラム」の一部として留学生センターが開講する「日研ゼミナール」では単位が認定されないが、それ以外には単位が認定される科目であり、本学の日本語教育における一つの特徴となっている。また、後掲の表にあるように、日本語担当教員が各学部や研究科と連携をとりながら、センターや学部の枠にとらわれずに講義を担当していることも特徴として挙げるができる。

1. 留学センター開講のコース

1-1. 日本語研修コース

〈コースの概要〉

このコースは、文部科学省国費研究留学生のうちで日本語の予備教育を必要とする者（「日本語研修生」と呼ばれる）を主な対象とする。渡日時以前に日本語学習歴のない者から初中級レベルにある留学生がこのコースを受講し、半年間の日本語学習の後、本学の研究生、あるいは、大学院生となる。日本語研修生以外に、大学推薦の国費留学生、交流協定大学からの派遣学生、あるいは私費の留学生がこのコースに参加することもある。

このコースの日本語学習の目標は、学内外の日常生活に必要な日本語運用能力を獲得すること、および、それぞれ学生の専門の勉強・研究活動に必要な日本語力の基礎を構築することである。本学は社会科学系の大学であり、商学、経済学、法学、社会学の各分野に進む留学生を迎えている。このコースの中級以降では学生個々の専門に対応した専門日本語教育の展開が模索されている。

16週間の集中コース修了後には、それに接続した日本語学習のクラスが「春季・秋季集中日本語コース」および、学部の科目（「全学共通教育科目」「学部教育科目」）の中に準備されている。例えば、学習歴を全くもたずに日本語研修コースに参加した学生の場合、16週間の集中コースの後、3週間の「春季・秋季集中日本語コース」内の、日本語初級終了レベルに合わせた、中級への橋渡しクラスで学習を継続する。さらに「春季・秋季集中日本語コース」を修了した学生には、次学期に「全学共通教育科目」「学部教育科目」内に、そのレ

ベルに合った日本語クラスが用意されており、日本語学習がスムーズに継続されるよう配慮がなされている。

日本語教育のほか、異文化理解・適応に焦点を当てた授業科目として「異文化体験ゼミナール」が開講され（木曜午後2コマ。97年度は「異文化発見ゼミナール」として、98年度から2002年度までは「日本の社会と文化」として、それぞれ開講）、日本の社会と文化を理解するための講義・工場見学・中学校訪問・伝統文化鑑賞など多彩な活動が展開されている。

〈各学期報告〉

第16期 (2004年4月コース 2004年4月～2004年9月)

7か国から16名の留学生が参加。3クラス編成。9名を初級クラスに、6名を初中級レベルのクラスに、1名を中上級レベルのクラスとした。

日本語教育担当教員は3名の専任教員、及び非常勤講師（田中久美子、福岡理恵子、北岡幹子、高橋美和子）（敬称略）である。

主な教材：『初級日本語』（東京外国語大学留学生日本語教育センター）、『中級の日本語』（三浦・マグローイン花岡）、『毎日の聞きとり50日 初級編』（宮城ほか）、『ニュースで学ぶ日本語パートII』（三井ほか）、『ヤンさんと日本の人々 初級』（国際交流基金企画）、『Basic Kanji Book 基本漢字500 (Vol.1、Vol.2)』（加納ほか）、『J-Bridge』（小山）、『わくわく文法リスニング99』（小林ほか）、『毎日の聞きとり50日 中級編』（宮城ほか）

第16期生名簿

氏 名	性別	国 籍	修了後配置先
Swasono, Fauziah	F	インドネシア	国際企業戦略研究科
Sirirak, Sangrat	F	タイ	法学研究科
Photchanaprasert, Nuttapon	M	タイ	経済学研究科
Sriviboon, Anupong	M	タイ	商学研究科
Arao, Joy Rubillar #	F	フィリピン	(法学研究科)
Nguyen, Nam Hai ##	M	ベトナム	(商学研究科)
Chung, Poui Wah Lisa	F	連合王国	商学研究科
Van Wijk, Michel	M	オランダ	経済学部
Mueller, Alexander Christoph*	M	ドイツ	商学研究科
Opzondek, Peter Sebastian*	M	ドイツ	商学研究科
Abram, Jutta*	F	ドイツ	商学研究科
Fischer, Simone*	F	ドイツ	社会学部

1. 日本語教育部門

Le Bail, Helene Monique Yvonne*	F	ドイツ	社会学研究科
Bauer, Patric k *	M	ドイツ	商学研究科
Spindler, Andre*	M	ドイツ	社会学研究科
Crummenerl, Marc*	M	ドイツ	商学研究科

* 交流学生

一身上の都合により5月に文部科学省奨学金を辞退、母国に帰国

一身上の都合により7月に文部科学省奨学金を辞退、母国に帰国

第16期時間割

		I	II	III	IV
月	A	初級文型・語彙 (田中)	初級文型・語彙 (田中)	初級文型・文字 (西谷)	初級文型・作文 (西谷)
	B	----	初中級聴解 (鶴田)	初中級翻訳 (鶴田)	----
	C	----	日本語選択・文法Ⅱ (三枝)	日本語上級・前 (石黒)	
火	A	初級文型・語彙 (田中)	初級文型・語彙 (田中)	初級漢字・聴解 (高橋)	初級文型復習 (高橋)
	B	初中級文型 (福岡)	初中級聴解 (福岡)	日本語中級・中 (今村)	日本語選択・社会科学の 基礎語彙(石黒)
	C	日本のカルチャー (石黒)	経済専門文献日本語 (今村)		----
水	A	初級文型・語彙 (西谷)	初級文型・作文 (西谷)	----	----
	B	----	日本語選択・文章表現Ⅱ (今村) ----	----	----
	C	日本語選択・上級 読解Ⅰ(石黒)	翻訳 (鶴田)	日本語選択・ 口頭表現Ⅲ(金井)	日本語選択・速読 (中川)
木	A	初級文型・語彙 (北岡)	初級文型・語彙 (北岡)	異文化体験 ゼミナール (中本)	異文化体験ゼミナール (中本)
	B	初中級文型 (福岡)	初中級聴解 (福岡)		
	C	----	----	日本語上級・前 (石黒)	
金	A	初級文型・語彙 (田中)	初級文型・語彙 (田中)	初級漢字 (高橋)	初級文型復習 (高橋)
	B		初中級聴解 (鶴田)	日本語中級・中 (今村)	初中級・会話 (三枝)
	C	----	日本語選択・上級読解Ⅱ (三枝) ----		----

第17期 (2004年10月コース 2004年10月～2005年3月)

4か国から4名の留学生が参加。3クラス編成。日本語教育担当教員は4名の専任教員、及び非常勤講師(田中久美子、福岡理恵子、高橋美和子、中川まち子、北岡幹子、金井勇人)(敬称略)である。

主な教材：『初級日本語』(東京外国語大学留学生日本語教育センター)、『毎日の聞きとり plus40』(宮城ほか)、『中級の日本語』(三浦・マグローイン花岡)『Basic Kanji Book 基本漢字 500 (Vol.1、Vol.2)』(加納ほか)、『ニューアプローチ中級日本語 基礎編 改訂版』(小柳)

第17期生名簿

氏 名	性別	国 籍	修了後配置先
Siow, Sylvia	F	マレーシア	社会学研究科
Mardonov, Bakhodir Botirjonovich*	M	ウズベキスタン	経済学研究科
Goni, Md Abdul *	M	バングラデシュ	経済学研究科
花長春**	M	中国	国際企業戦略研究科

*大学推薦国費留学生 **大学院生

1. 日本語教育部門

第 17 期時間割

		I	II	III	IV
月	A	初級・文型語彙 (田中)	初級・文型語彙 (田中)	初級・会話聴解 (石黒)	初級・文字 (石黒)
	B	----	日本語選択・文章 表現 I (石黒)	----	----
	C	----	----	翻訳 (鶴田)	----
火	A	初級・文型語彙 (北岡)	初級・文型語彙 (北岡)	初級・会話聴解 (高橋)	初級・文字 (高橋)
	B	初中級・文型語彙 (福岡)	初中級・会話 (福岡)	日本語中級・中 (今村)	日本語選択・社会科学 の基礎語彙 (金井)
水	A	初級・表現作文 (石黒)	初級・表現作文 (石黒)	----	----
	B	----	初中級・作文 (鶴田)	口頭表現 I (中川) ----	----
木	A	初級・文型語彙 (北岡)	初級・文型語彙 (北岡)	異文化体験ゼミナール (中本)	
	B	初中級・文型語彙 (福岡)	初中級・文型語 彙 (福岡)		
金	A	初級・文型語彙 (田中)	初級・文型語彙 (田中)	初級・会話聴解 (高橋)	初級・文字 (高橋)
	C	----	初中級・聴解会話 (鶴田)	日本語中級・中 (今村)	----

1-2. 日本語・日本文化研修留学生プログラム

〈コースの概要〉

このコースは、文部科学省国費学部留学生のうちで日本語・日本文化を中心に学び、日本語力が上級レベルに達している者を対象としている。一橋大学ではこれまでも年間 5 名程度の日本語日本文化研修生を各学部が中心となって受け入れてきていたが、2004 年 10 月からは、日本語日本文化研修生の教育をさらに充実するために、留学生センターが責任をもって指導に当たる体制を下記のように整えた。新しい体制の大きな柱として、修了レポートの作成指導を目標とする留学生センター開講科目「日研生ゼミナール」を新設した。

2004 年度日本語・日本文化研修留学生プログラム

定員 10 名

期間 2004 年 10 月 1 日 ~ 2005 年 9 月 30 日

カリキュラム

- (1) 日研生ゼミナール (必修)
- (2) 日本語科目 (選択)

- (3) 学部ゼミナール (必修)
 (4) 全学共通教育科目、学部教育科目 (選択)

2004年度日本語日本文化研修生名簿

名前	性別	国籍	学部	指導教員
Dao, Phuong Anh	F	ベトナム	経済学部	今村和宏
Cao, Shuai	M	中国	経済学部	今村和宏
Kim, Jieun	F	韓国	法学部	柏崎順子
Lee, Joo Hyun	F	韓国	法学部	柏崎順子
Billmack, Daniel John	M	アメリカ	法学部	田中孝彦
Yadamjav, Enkhbold	M	モンゴル	社会学部	松岡弘
Wild, Patrick	M	スイス	社会学部	関啓子
Turcsanyi, Tamas	M	ハンガリー	社会学部	加藤哲郎
Maslak, Monika	F	ポーランド	社会学部	渡辺雅男
Chen, Humphery Yonghui	M	シンガポール	社会学部	木村元

2004年度冬学期時間割

	I	II	III	IV	V
月	日研ゼミナール (五味・鶴田・西谷)	日本事情II(五味)	社会人文の日本語II (河野)	---	学部ゼミナール
火	---	日本語選択・文章表現 III(金井)	日本語選択・上級前 (西谷) 日本語選択・上級後 (五味)	経済の日本語I (西谷) 経済の日本語II (今村)	
水	日本語選択・ 翻訳(鶴田)	日本語選択・文章表現 II(金井)	日本語選択・口頭表現II (梅岡) 口頭表現III(金井)	日本語選択・速読 (中川)	
木	日本のビジネス文化 (太田)	映画鑑賞(西谷) 比較文化経験論II (横田)	異文化体験ゼミ(中本)		
金	---	日本語選択・上級読解 I(今村) 日本語選択・文法II (三枝)	---	---	

2. 全学共通教育科目としての日本語科目

全学共通教育科目として開講される日本語関係科目は多岐にわたる。2004年度は、年間のベ科目数で22、ゼメスター単位のベコマ数で45コマ(1コマ=90分授業が週に1回で、2単位に相当)になる。以下に各科目の担当者、コマ数、対象(特に明記しない限り留学生を対象とする)、内容、総時間数などを表にして記す。

1. 日本語教育部門

2-1. 日本語・日本事情科目

「日本語A」と「日本語B」は学部1年生の留学生のためのクラスで、「一般日本事情Ⅰ」及び「一般日本事情Ⅱ」は主に学部1・2年生の留学生を対象としている。この4科目が狭義の「日本語・日本事情科目」と呼ばれるものである。

表1：日本語・日本事情科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語A(鶴田、西谷)	2コマ /週	学部1年生	社会科学の勉強に必要な日本語能力を総合的に養成。特に教科書等を正確に読みこなし、講義を聞いて理解する訓練をする。	夏学期開講 60時間
日本語B(西谷、三枝)	2コマ /週	上に同じ	「日本語A」に続いて高度な日本語能力を養成する。	冬学期開講 60時間
一般日本事情Ⅰ (五味)	1コマ /週	主に学部1,2年生	広い視野から日本人、日本社会を捉え直し、日本を相対化するための作業を行う。	夏学期開講 30時間
一般日本事情Ⅱ (五味)	1コマ /週	上に同じ	現代日本に焦点を絞り、現代日本社会の理解に役立つ歴史的な事柄を扱う。	冬学期開講 30時間

2-2. 全留学生対象の日本語科目

次の表2・表3に掲げる科目は、単位取得が可能な正規科目として、交流学生(交流協定校からの1年の短期留学生)、研究生(日本語研修コース修了生を含む)、日本語日本文化研修生(略称「日研生」)、学部1・2年生、大学院正規生など、全カテゴリーの留学生がレベルとニーズにふさわしいものを履修している。

このうち、「日本語中級・中」から「日本語上級・後」の4科目は、レベル別の「基本科目」、それ以外は技能別の「選択科目」である。クラス編成はプレースメント・テストの結果、学習者それぞれのニーズ等によって決められる。2004年度の非常勤講師は、梅岡巳香、中川まち子、金井勇人の3氏であった。

表2：基本科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語中級・中 (今村)	2コマ /週	主に交流学生、 研究生	教科書に沿って中級中期レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、視聴覚教材を利用しながら読解力や聴解力を向上させる	夏と冬に並行開講 各60時間
日本語中級・後 (三枝)	2コマ /週	主に交流学生、 研究生	教科書に沿って中級後期レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、視聴覚教材を利用しながら読解力や聴解力を向上させる。	夏と冬に並行開講 各60時間
日本語上級・前 (夏:石黒、冬:西谷)	1コマ /週	上に同じ	教科書や視聴覚教材を利用しながら上級前半レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、読解力や聴解力を向上させる。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語上級・後 (五味)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生、学部1, 2年生	教科書や新聞、社会科学分野の文献などを利用して、上級後半レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、読解力や聴解力、議論の技術を向上させる。	夏と冬に並行開講 各30時間

表3：選択科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語選択・文章表現Ⅰ (夏：今村、冬：石黒)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(中級)	社会科学系の論文を書く際に必要な基本的文型や 表現・語彙を習得し、論理的な文章をふさわしい 文体で書けるようにする。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・文章表現Ⅱ (金井)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生	上の練習に加え、説得力ある文章を書くための論 文構成の技術を習得する。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・文章表現Ⅲ (夏：石黒、冬：金井)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生、学部1, 2年生(上級)	文体、文章構成などについてともに議論すること を通して、論文を書くのに必要な文章表現技術を 身につける。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・文法Ⅱ (三枝)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(上級)	中・上級レベルの文法力を確かなものにする。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・口頭表現Ⅰ (中川)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(中級中)	大学生活で自然な日本語が使えるようにする。中 級中期レベルの運用能力をつける。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・口頭表現Ⅱ (梅岡)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(中級後)	大学生活で自然な日本語が使えるようにする。中 級後期レベルの運用能力をつける。待遇表現を学 ぶ。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・口頭表現Ⅲ (金井)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(上級 後)、学部1,2 年生(上級)	大学生活に必要なプレゼンテーション・スキル等 高度なコミュニケーション・スキルを養成する。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・翻訳 (鶴田)	1コマ /週	交流学生、研究 生、学部1,2年 生(上級)	主に社会科学系の英語文献を日本語に翻訳する際 の技術を習得する。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・中級読解Ⅱ (梅岡)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(中級)	初級文法をふまえた上で長い文にふれる。さらに、 語彙を増やす。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・上級読解Ⅱ (三枝)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(上級後)	社会・人文科学分野の専門書を読み、その分野の 基本概念や表現を習得する。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・速読 (中川)	1コマ /週	主に学部1,2年 生、交流学生 (上級)	社会・人文科学分野の学術論文や新聞・雑誌など で、生の日本語を読み進む能力を養成する。	夏と冬に並行開講 各30時間
日本語選択・社会科学の基礎 語彙(夏：石黒、冬：金井)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(中級)	社会科学の各分野の勉強・研究に必要な基礎語彙 をテキストやプリントを用いて学ぶ。	夏と冬に並行開講 各30時間

2-3. 全学生対象の日本語関係科目

「現代日本語論Ⅰ」「現代日本語論Ⅱ」は、留学生を含む、学部生一般を対象とした全学
共通教育科目(共通発展科目)であり、「共通ゼミ：現代日本語」は社会学部3年生と日本
語日本文化研修生を対象とした科目である。

表4：学部の日本語関係科目(全学生対象)

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
現代日本語論Ⅰ (石黒)	1コマ /週	留学生を含む学部 1,2年生	表記、表現選択、文章構成などについて提出され た課題をもとに検討することを通して、文章技術 のさらなる向上を目指す。	夏と冬に並行開講 各30時間
共通ゼミ：現代日本語 (松岡)	1コマ /週	学部4年生と日 研究生	日本語、日本文化に関する基本文献を講読する。	通年開講 60時間

1. 日本語教育部門

3. 学部教育科目としての日本語科目

学部教育の枠組みでは、経済学部において「経済の日本語Ⅰ・Ⅱ」（各週1コマ）、社会学部において「社会・人文の日本語Ⅰ」、「社会・人文の日本語Ⅱ」（夏学期・冬学期にそれぞれ週1コマ）が開講されている。いずれも経済学部、社会学部における留学生の専門日本語能力の向上を図るために開設されているが、他学部の研究生、交流学生、日研生も履修することができる。

表5：学部教育科目

科目（担当者）	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
経済の日本語Ⅰ （西谷）	2コマ ／週	主に経済学部の交流学生、研究生（中級）	経済学を中心とする社会科学の分野で使われる語彙・表現をテキストを用いて学習するほか、日本経済新聞などの記事を講読し、テレビニュースを視聴する。	夏と冬に並行開講 各30時間
経済の日本語Ⅱ （今村）	1コマ ／週	主に経済学部の学部生、交流学生、研究生（上級）	主に経済学の分野で用いられる語彙・表現を学習する。日本語能力試験1級受験レベルの日本語力が望ましい。	夏と冬に並行開講 各30時間
法言語文化論Ⅲ （夏：三枝）	1コマ ／週	主に法学部の学部生、交流学生、研究生（上級）	『判例で学ぶ日本の法律』（一橋大学留学生センター）をテキストに、法律や法学に関する文章を読みこなす力をつける訓練をする。	夏学期開講 30時間
社会・人文の日本語Ⅱ （冬：河野）	1コマ ／週	学部の1、2年生、交流学生、日研生、研究生	「社会・人文の日本語Ⅰ」の内容をさらに深める。特に社会学専門知識について理解させる。	冬学期開講 30時間

4. 大学院科目

「経済専門文献日本語」が経済学研究科、「法言語文化論」が法学研究科、「総合社会科学専門日本語」「総合社会科学日本事情」「文化生成研究」が社会学研究科、「専門日本語表現技法Ⅰ・Ⅱ」が言語社会研究科で開講されている。科目によっては、留学生に限定せず、日本語を母語とする学生にも開講されている。

表6：大学院科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
経済専門文献日本語 (今村)	1コマ /週	主に経済学研究科の修士、博士課程の学生	経済専門文献日本語の理解における落とし穴に目を向け、言語表現に現れる筆者の視点や立場を読みとる。同時に論文執筆、発表の技術も指導する。	夏と冬に並行開講 各30時間
法言語文化論 (三枝)	1コマ /週	主に法学研究科の修士、博士課程の学生(日本人を含む)	憲法を一つの手がかりとして、日本人の思想・行動をいくつかの国と比較しながら考える。	冬学期開講 30時間
総合社会科学専門日本語 (松岡)	1コマ /週	主に社会学研究科と言語社会研究科の修士、博士課程の学生	近代の日本語の文章を文法的に正確に読み解く練習を行う。文語文法の基礎と歴史的仮名遣いを概観し『日本近代思想体系』の文章、あるいは受講生の専門分野から文章を抜粋して読む。	夏学期開講 30時間
総合社会科学日本事情 (河野)	1コマ /週	主に修士1年生	戦後の日本人論、日本文化論の著作を複数講読し、その内容を自分の身近な問題として検討する。授業参加者に自分なりの「日本人論」を考察してもらう。	夏学期開講 30時間
社会思想史各論 (松岡)	1コマ /週	主に社会学研究科と言語社会研究科の学生(日本人を含む)	17世紀チェコのヤン・アモス・コメニウス(コメニウス)の教育思想・言語教育教科書を原題の言語教育の視点から比較・考察する。	冬学期開講 30時間
社会文化論原典講読 (松岡)	1コマ /週	主に社会学研究科と言語社会研究科の学生(日本人を含む)	17-20世紀のヨーロッパにおける言語教育理論(Victor, Gouin, Sweet など)を原典講読を通してたどる。	冬学期開講 30時間
文化生成研究 (松岡)	1コマ /週	主に社会学研究科と言語社会研究科の学生(日本人を含む)	「松下大三郎の文法論」の題目の下で、『改撰標準日本文法』を講読する。	夏学期開講 30時間
専門日本語表現技法Ⅰ (鶴田)	1コマ /週	主に言語社会研究科の学生	文章表現と口頭表現の基本的特徴を押さえる。	夏学期開講 30時間
専門日本語表現技法Ⅱ (鶴田)	1コマ /週	主に言語社会研究科の学生	学術的文章の特徴に習熟するための訓練を行う。	夏学期開講 30時間 (集中講義)

5. 補講としての日本語(春季・秋季集中日本語コース)

正規のカリキュラム外に開講されるもので、単位の認定は行われぬ。2004年度は9月と3月に3週間の集中コースが開かれた。対象者は、センターの日本語研修生や渡日直後の交流学生、日本語能力向上を目指す在籍生で、そのクラス編成、担当者、内容、使用教材は以下の通りである。

1. 日本語教育部門

表7：2004年度秋季日本語集中コース（2004年9月2日～22日、全70時間）担当：三枝、中川

クラス（担当者）	内容・目標	使用教材
Aクラス （高橋、麻生）	初級文法・漢字・語彙を確認しながら聴解力の向上を目指し、中級文法へと橋渡しする。	・『J-Bridge』凡人社
Bクラス （北岡、鈴木）	中級前期学習者の読解力・漢字運用力・聴解力・会話力の向上・語彙力強化を目指す。	・『日本語上級読解』凡人社
Cクラス （江原、足立）	中級後期の学習者を対象に、アカデミックジャパニーズの運用力を高め、中級から上級への橋渡しをする。	・『日本への招待』新曜社
Dクラス （金井、松本）	高度な内容の時事問題について読解、討論および文章作成を行う。	・『日本の論点 2004』文藝春秋社 ・『専門分野の語彙と表現』一橋大学経済学研究科
翻訳クラス （中川、福原）	上級学習者が経済学・商学に関する英文を日本語に翻訳する力を伸ばす。	・各研究科の過去入学試験問題等

なお、翻訳クラスは9月1日～14日、ただし、3日をのぞく9日間であった。

表8：2004年度春季日本語集中コース（2005年3月1日～18日、全70時間）担当：鶴田、中川

クラス（担当者）	内容・目標	使用教材
Aクラス （高橋、田中）	初級文法・漢字・語彙を確認しながら聴解力の向上を目指し、中級文法へと橋渡しする。	・『J-Bridge』凡人社
Bクラス （金井、梅岡）	初級文法・漢字・語彙を確認しながら聴解力の向上を目指し、中級文法へと橋渡しする。	・『日本語中級 J-501』スリーエーネットワーク
Cクラス （中川、北岡）	中級後期～上級前期学習者の聴解力・会話力の向上を目指す。	・『日本の論点 2005』文藝春秋社 ・『日本語生中継』くろしお出版

（鶴田庸子、三枝令子）